

平成 16 (2004) 年度

第 2 回知床エコツアーリズム推進協議会

議事概要

第2回知床エコツーリズム推進協議会 議事概要

平成 17 年（2005 年）3 月 28 日 13：30～15：30 於：斜里町産業会館 2 階

出席者：別紙出席者名簿を参照

【1】挨拶

【2】出席者紹介

【3】議 事

- 1) 平成 16 年度事業報告について
- 2) 平成 17 年度事業計画（案）について
- 3) 知床エコツーリズム推進計画（案）について
- 4) 第 1 回エコツーリズム推進オリエンテーション参加報告
- 5) 自然体験ツアー参加者の選好分析
 - 『知床国立公園の自然体験ツアーに関するアンケート』秋季調査結果報告 -
柘植 隆宏（高崎経済大学地域政策学部講師）
- 6) その他、次回予定

【1】挨拶

会長：

年度末お忙しいところありがとうございます。3 年計画でエコツーリズム推進モデル事業を立ち上げて、手探り状態で進めている。他の地域の事例なども参考にしながら進めていきたい。来年度からは具体的な事業がはじまっていくので、皆さまのご協力をお願いしたい。また、この会の副会長の阿保薫さんが 1 月に急逝されたことを報告します。

関主幹（北海道）：

世界遺産への推薦に関して、IUCN への回答が現在、作成されている。世界遺産ということだけでこのエコツーリズム推進を行っているわけではないが、今後ますます重要になってくる分野である。

【2】出席者紹介

自己紹介（別紙参照）

【3】議 事

- 1) 平成 16 年度事業報告について

事務局（知床財団）：

この事業の7項目に沿って説明。

1．知床エコツーリズムのあり方検討

推進協議会の立ち上げ、ワーキンググループの設置を決定。

地域住民向けの講演会も行った。江戸川大学の吉田氏によるエコツーリズムについての講演会や、エコツーリズム・オーストラリアのスティーブン・ポール氏による、オーストラリアのエコツーリズムの認証制度の現状などに関する講演会を行った。

2．ガイド技術講習会

エコツアーの中心的役割を担うガイドに対して、エコツーリズムに関する哲学や自然に関する知識及び、ガイド技術の向上を目的とした講習会を開催した。知床ガイド協議会に加盟している事業者に対して参加の呼びかけを行った。

平成16年度は2回の講習会を実施した。初年度のガイド向け講習会として、まずはエコツーリズムに関する基本的な知識、概念を学ぶための座学を中心に行った。

第1回ガイド技術講習会

2005年1月22～23日 於：ウトロ漁村センター 参加者数：36名

講師：吉田正人（江戸川大学助教授） - エコツーリズムの概念

新谷暁生（シーカヤッカー） - 知床におけるガイドの心得

松田 功（知床博物館） - 知床の歴史と遺跡の保護について

第2回ガイド技術講習会

2005年3月3日 於：ウトロ漁村センター 参加者数：20名

講師：Stephen Pahl（オーストラリア・エコツーリズム協会）

- エコツーリズムの原則・認証制度について

3．先進地視察と報告ワークショップの開催

Stephen Pahl氏へのヒアリングの開催

2005年3月2日 於：斜里町ゆめホール知床

平成17年度に予定されている、海外エコツーリズム先進地への視察に対する情報収集を目的に、世界的なエコツーリズムの現状、視察場所としてふさわしい知床に類似した環境を持つ先進地の情報などについてヒアリングを行った。

4．地域産業と連携したエコツーリズムの展開

漁業・農業など、知床の豊かな自然を活かした一次産業と観光業との連携を図るため、ワーキンググループにより検討を進めた。

【地域産業ワーキング検討会】

第1回地域産業ワーキング 2004年10月14日 於：ウトロ漁村センター

地場産品を使ってすでに製品化・直販などの事業を行っている団体から、現在の取り組

みについて聞き取りを行った。今後取り組んでいきたい企画やアイデアについては各団体からアンケート形式で聞き取りをすることとした。

第2回地域産業ワーキング 2004年12月4日 於：羅臼町コミュニティセンター

第1回ワーキングでのアンケート結果を基に作成したアクション・プラン(案)について検討を行った。農業・漁業体験などの産業体験型プログラムの導入や地場産品の販売促進を進める上での方策について意見交換を行った。

第3回地域産業ワーキング 2005年1月16日 於：斜里町ゆめホール知床

アクション・プラン(案)について具体的な検討を行った。産業体験型プログラムを実施する際には、「参加者に対するホスピタリティなどを事前に受け入れ側に対してレクチャーする必要がある」、「生産者の顔が見えるプログラムにしたい」などの意見があった。今後は農業、漁業など分野ごとに分かれて、実際に農業体験などを受け入れ可能な農家などの選出と実施に向けての準備を行うことになった。

【その他】

アドバイザーを招聘し、他地域の事例紹介による勉強会を開催した。

アドバイザーからの事例紹介 2004年10月14日 於：ウトロ漁村センター

(財)日本交通公社 寺崎竜雄氏

他地域におけるエコツーリズムへの取り組みの紹介

(株)ニセコリゾート観光協会 山本契太氏

ニセコ町における農産物の直販システムについて

5. エコツーリズム推進計画の策定

知床エコツーリズム推進計画(案)の作成

3ヵ年の事業最終年度(平成18年度)で策定を目指す「推進実施計画」、「ガイドライン」へ向けて、知床におけるエコツーリズムの現状と課題、今後の方向性への提言をまとめた「推進計画(案)」を作成した。この案をもとに、今後検討を重ねることとする。

道東エコツーリズムマップの作成

道東地域のエコツーリズム資源を紹介したパンフレット「道東エコツーリズムマップ」を作成した。内容については今後さらに改善し、印刷、配布する予定。

6. 滞在型モデルツアー推進事業

現在の通過型が主流の観光形態を滞在型に転換していくため、ワーキンググループにより検討を進めた。モデルツアーを企画し、平成17年度に試行する。

【滞在型モデルツアーワーキング検討会】

第1回滞在型モデルツアー・ワーキング 2004年8月25日 於：ウトロ漁村センター
知床が目指すべきモデルツアーのあり方について協議を進めた。モデルツアーについては地元ガイドからも企画を募集することとした。

第2回滞在型モデルツアー・ワーキング 2004年9月22日 於：ウトロ漁村センター
地元ガイドからの企画提案を中心にモデルツアーを検討した。複数の企画は物理的に対応が難しいので、団体型ツアーは斜里、羅臼を横断する企画とし、個人型プログラムは今後検討することとした。

第3回滞在型モデルツアー・ワーキング 2004年10月14日 於：ウトロ漁村センター
団体型ツアー企画の骨格の決定とタイアップエージェントの選定方法の検討を行った。また、モデルツアーを対応するためのガイドの条件についても検討を行った。

第4回滞在型モデルツアー・ワーキング 2004年11月5日 於：斜里町ゆめホール知床
タイアップエージェントの選定方法の決定と、モデルツアー対応ガイドの条件整理を行った。

第5回滞在型モデルツアー・ワーキング 2004年12月7日 於：斜里町役場
タイアップエージェント一次審査（書類選考）を行った。

第6回滞在型モデルツアー・ワーキング 2004年12月18日 於：ゆめホール知床
タイアップエージェントの二次審査（ヒアリング）を行い、タイアップエージェントは(株)日本旅行に決定した。

7. 海外からの旅行者の誘致推進事業

Stephen Pahl 氏への観光関係者ヒアリングの開催

2005年3月3日 於：ウトロ漁村センター

オーストラリア・エコツーリズム協会の Stephen Pahl 氏より、海外からの旅行者を誘致するための受け入れ態勢の整備や、宿泊施設などの事業者のエコツーリズム認証制度などについてヒアリングを行った。

以上が事業報告。

会長：

質疑は、17年度事業計画の説明の後で、あわせて行う。

2) 平成17年度事業計画(案)について

事務局(知床財団)：

来年度も今年度と同じ7つの事業項目で行っていく。

【知床型エコツーリズムのあり方検討】

1. 推進協議会の開催(2回)

・平成17年度 第1回推進協議会の開催(5月中旬)

各事業契約終了後、確定した事業計画・予算の承認を行う。

・平成17年度 第2回推進協議会の開催(3月中旬)

事業報告及び、平成18年度事業計画(案)についての意見集約を行う。知床型エコツーリズムのあり方について、推進実施計画、及びガイドライン等の検討を開始する。

2. 町民向けの情報発信

・星野リゾート社長を招いての講演会と勉強会の開催(6月上旬)

町民向けの講演会の開催。星野リゾートの活動紹介を通し、JTBF 寺崎氏と対談形式で、知床が目指すべきエコツーリズムのあり方について考える。ホテルなどの観光関係者向けに星野リゾートの理念と経営戦略を学ぶ勉強会を開催する。

3. ガイド協議会への支援

知床ガイド協議会運営のための支援を行う。

【ガイド技術講習会】

1. 安全対策講習会

・安全対策座学講習会(4月下旬)

野外における危険な生物への知識・安全対策、関係する法令、保険などについての講習会を行う。

・安全対策技術講習会(4月下旬)

ガイド中の事故・緊急事態に対応するための救急救命、搬送方法などの技術講習会を行う。

2. 知床の自然についての講習会(11月下旬)

ガイドとして正しい知識を身につけるための講習会を知床博物館の協力を得て行う。内容については、知床ガイド協議会と協議した上で、決定する。

【先進地視察と報告ワークショップの開催】

1. 海外先進地視察研修

平成 16 年度の海外エコツアーガイド招聘による情報をもとに、海外先進地視察を検討する。視察地ではエコツアーなどを体験する他、推進計画やガイドライン、運営方法などについても学ぶ。エコツーリズムガイドラインやガイドなどの認証制度を持つオーストラリアが有力。観光関係者、ガイドなど 6 名程度の派遣を予定。

2. 国内における地域産業連携型エコツーリズムの視察研修（予算があれば）

長期研修参加が難しい、漁業者・農業者向けに短期間の研修を行う。国内における地域産業と連携したエコツーリズムを展開する地域を対象地とする。また、視察地は、他のモデル地区を視野に入れることにより、効果的な交流をすることもできる。

3. 先進地視察報告会の開催

視察チームの報告会を開催し、知床が目指すべきエコツーリズムのあり方のディスカッションを行う。平成 18 年度事業の推進計画やガイドライン作成にむけての準備を進める。

【地域産業との連携したエコツーリズムの展開】

1. 地域産業連携型のエコツーリズムの試行

平成 16 年度の協議結果を踏まえ、漁業・農業などと連携したプログラムを滞在型モデルツアーの一部として試行的に実施する。漁業者・農家など受け入れ側へのガイダンス・講習会も実施し、受け入れ体制を整備する。

2005 年度 斜里・羅臼エコツーリズム推進モデル事業計画（案）

【滞在型モデルツアー推進事業】

1. 春期、秋期における団体型モデルツアーの試行

16 年度に企画したモデルツアーを実施し試行する。参加者、引率ガイドへはアンケートなどを行う。引率ガイドを集めてのディスカッションも行い意見をフィードバックさせ、平成 18 年度の企画を行う。

2. 冬期におけるモデルツアーの企画、試行

エージェントとタイアップした冬期におけるモデルツアーの企画、試行を行う。

3. 個人型プログラムのプロモーション活動

知床型エコツアーのあり方を示した上で、各ガイド団体から個人型プログラムを募集する。規準に見合ったプログラムは、ホームページでの紹介やエージェントなどへのプロモーション活動を行う。参加者や対応したガイドから意見を集約し、知床が目指すエコツアーのあり方の検討材料とする。

【海外からの旅行者の誘致推進事業】

1. 知床紹介英文ホームページの作成（18 年 2 月完成予定）

外国人対応のホームページを立ち上げ、海外ツーリストが必要とする情報提供を行う。世界自然遺産に登録された場合は、遺産登録地としての自然環境や保護管理活動なども併せて紹介する。知床財団事業とも連携して行う。

2005年度 北海道エコツーリズム推進モデル事業計画(案)

1. 知床型環境教育プログラムを検討する。
2. 通年かつ体験・滞在型観光地づくりを推進する。

以上が来年度の事業計画案である。

会長：

それぞれの事業について、着実に実行しているところである。ここまでで質問があるかなければ、議事の3へ。

3) 知床エコツーリズム推進計画(案)について

知床財団(事務局)：

基本計画的な性格。最終的には平成18年度に実施レベルのものを作成する。この間、様々なご意見を頂きたい。

会長：

現在、この事業とは別に、利用適正化の検討会が行われている。

現場のガイドが安定してガイド事業を行っていくことのできる環境整備が必要。一時期に人が集中するのではない方向性を目指す。国道、道道の冬季の利用についても提案している。この後、この計画案を仕上げるために様々なご意見を出していただきたい。

利用者・観光客に対する周知も必要。地元でもある程度の基準を作って、取り組んでいかなければならない。

4) 第1回エコツーリズム推進オリエンテーション参加報告

別紙参照(資料)参照。

知床財団(事務局)：

全国13ヵ所のモデル地区の関係者などが集まり、情報交換などを行うという趣旨のもの。知床は13地区のなかの「豊かな自然の中での取り組み」という位置づけとなっている。このほかは白神・小笠原・屋久島の地区がこの類型に含まれている。

知床は他の地域から大変高い評価を受けたが、個々の取り組みからは学ぶことも多く、今後も他の地区とも連携を取りながら進めていく必要がある。

事務局（斜里町）:

外から見ると知床はよく見える。しかし様々な問題も出てきていることは確かでもある。知床なりのやり方を考えていかなければならないとあらためて感じた。

会長:

ここまでで質問があるか？

環境省:

この場で話されていることと本当に地元が望んでいることは同じなのか？ということに少し気を使ってやって行って欲しい。

会長:

観光に携わる人にだけではなく、農業・漁業にたずさわるような人にも時間をかけて参加して行って欲しい。

羅臼旅館組合:

推進計画とマップについて対象地域はどこなのか？推進計画は知床のものだが、エコツーリズムマップは道東圏のようだ。趣旨に反していないか？

事務局（知床財団）:

道の事業としては知床だけではなくて広域観光をイメージしたものを作成して欲しいという性格のものである。

下村（斜里バス）:

海外からの旅行者誘致推進について、実際にオーストラリアからの誘致を推進するのか？

会長:

オーストラリアや欧米を視野にいれるのか、アジア圏を考えるのか、また協議会として実際にプロモーションまでいけるのかどうかは今後の検討課題である。

事務局（斜里町）:

この事業の中で、海外から実際に誘致を推進することは難しい。情報収集や勉強会を行い、知床の情報発信の仕方を検討し、試行は行う。

事務局（北海道）:

グリーンツーリズム、マリンツーリズム、エコツーリズムなど各課がそれぞれに行っているが、それらを
道内で2箇所募集するものがある。知床応募すればあたるのでは？

会長：

おそらく、現場が先行してしまうのではと思われる。先日のオリエンテーションでも他の地域で非常に苦労してやっていることがわかった。早い段階で意見集約ができてやっていければいいと思っている。

事務局（知床財団）：

推進計画案については、今月末までに意見があれば、頂きたい。

会長：

このことについて了承ということによろしいか？

一同：

了承

5) 自然体験ツアー参加者の選好分析

- 『知床国立公園の自然体験ツアーに関するアンケート』秋季調査結果報告 -

柘植 隆宏（高崎経済大学地域政策学部講師）

柘植：今回は予備的な調査。自然体験プログラム利用者に対するアンケートから、自然体験ツアーで訪れる場所、見られる動物、ガイドの解説の詳しさ、ツアーの人数、などの要素に対して、参加者がどの程度の価値を見込んでいるのかを経済的に評価するもの。今後さらに本格的な調査を継続していく。

6) その他、次回予定

事務局（知床財団）：

次回の推進協議会は5月の末ごろを予定している。

会長：

全体を通じて、何か質問、意見などがあるか。

羅臼遊漁船組合：

シカの食害が本当にひどいのだが、このままでいいのか？片方でエコツーリズムの推進

とかいいながら、環境が悪化していくことを放置しておくことについてどう思うか？

林野庁：

世界遺産に絡んで科学委員会の中で、エゾシカWGが立ち上がっており、実行に向けて検討している問題である。

会長：

本日はお疲れ様でした。

第2回知床エコツーリズム推進協議会出席者名簿

区分	構成団体・機関	代表者	会議出席者
構成団体	知床の世界自然遺産登録をめざす斜里町民会議 斜里町商工会 知床斜里町観光協会 知床温泉旅館協同組合 知床民宿協会 斜里第一漁業協同組合 ウトロ漁業協同組合 斜里町農業協同組合 斜里ハイヤー株式会社 道東観光開発株式会社 斜里バス株式会社 知床自然保護協会 斜里山岳会 知床ガイド協議会 (社)北海道ウタリ協会斜里支部 羅臼町・知床世界遺産登録推進協議会 羅臼町商工会 羅臼町観光協会 羅臼町旅館組合 羅臼漁業協同組合 羅臼遊漁船組合 羅臼町酪農振興協議会 阿寒バス株式会社 羅臼ハイヤー株式会社 羅臼山岳会 (社)北海道ウタリ協会羅臼支部	会長 土橋利文 会長 土橋利文 会長 上野洋司 組合長 上野洋司 会長 小野寺康郎 組合長 桜庭武弘 組合長 今井鐵男 組合長 濱田幸博 社長 木村秀基 代表取締役社長 國田充 代表取締役 川村國博 会長 石井政之 会長 遠山和雄 代表 関口均 支部長 梅沢征雄 会長 阿保薫 会長 阿部満晴 会長 阿保薫 組合長 湊謙一 組合長理事 石黒勝三郎 会長 千綾和喜 会長 荒井順一 代表取締役 山崎政夫 社長 岡野平吉 会長 中村孝也 支部長 大木篤志	事務局長 菊池孝司 役員 横田和久 組合長 上野洋司 桂田鉄三 理事 山田正彦 専務 野田朝夫 社長 木村秀基 総務部長 下山誠 役員 鈴木謙一 会長代行 湊謙一 組合長 湊謙一 指導部長 白濱修二 事務局 石見公夫

区分	構成団体・機関	代表者	会議出席者
協議会事務局	北海道 羅臼町 斜里町 知床財団		環境生活部環境室自然環境課主幹 関直樹 環境生活部環境室自然環境課主査 塩越睦仁 網走支庁地域政策部自然環境係 村越正浩 根室支庁地域政策部自然環境係長 小畑淳毅 根室支庁地域政策部自然環境係 角谷栄政 環境課課長補佐 工藤茂樹 環境課自然保護係長 田澤道広 総務環境部環境保全課長 村田良介 商工観光課観光係 伊藤春彦 事務局長 山中正実 普及事業係長 松田光輝 普及事業係 田中直樹 普及事業係 坂部皆子
関係行政機関	環境省東北海道地区自然保護事務所 林野庁北海道森林管理局	所長 星野一昭 自然遺産保全調査官 小野寺秀夫	保全調整専門官 樋口悟一 羅臼自然保護官 安藤弘 ウトロ自然保護官 田中準 網走南部森林管理署長 飯島哲夫 知床森林センター所長 西純一郎

報道・一般 高崎経済大学地域政策学部講師
北海道新聞

柘植隆宏
網走支局 小森美香